

## ソフトウェア工学(成績評価基準)

評価・ガイダンス	Cレベル(1pts) (改善が必要)	Bレベル(2pts) (もう少し努力が必要)	Aレベル(3pts) (目標達成)	Sレベル(4pts) (すばらしい)	評価の割合 (%)
(1)ソフトウェア工学の変遷 (10年の区切りでソフトウェア工学の変遷について説明ができる。)	専門用語を知っている。	専門用語の説明ができる。	複数の専門用語を関連づけて、システムの全体像を説明できる。	システムの全体像を、専門用語と関連づけて図式化できる。	10
(2)ソフトウェア工学を取り巻く学問体系(ソフトウェア工学と関連する学問群を系統立てて理解し、説明ができる。)	専門用語を知っている。	専門用語の説明ができる。	複数の専門用語を関連づけて、システムの全体像を説明できる。	システムの全体像を、専門用語と関連づけて図式化できる。	10
(3)ソフトを育てる(ライフサイクル1)(仕様設計、コーディング、デバッグ、動作確認、バージョン管理について説明と応用ができる。)	専門用語を知っている。	専門用語の説明ができる。	複数の専門用語を関連づけて、システムの全体像を説明できる。	システムの全体像を、専門用語と関連づけて図式化できる。	40
(4)人材を育てる(ライフサイクル2)(ソフトウェア工学のもう一つの柱、人材育成に関連する項目について説明と応用ができる。)	専門用語を知っている。	専門用語の説明ができる。	複数の専門用語を関連づけて、システムの全体像を説明できる。	システムの全体像を、専門用語と関連づけて図式化できる。	40